

丸協にゆーす

- 丸協トピック
『発掘！丸協ツワモノ紹介！①』
- 今、知っておきたい物流topics
「トラックからのケース荷下ろしを自動化する
ロボット、実用化へ」

丸協トピック

『発掘！ 丸協ツワモノ紹介 ①』

丸協に眠るツワモノを発掘！ご紹介していくコーナーです。
初回は超超ツワモノ。こんな多彩な方が丸協にいたなんて・・・

共配岡山の福森課長代理、実は・・・

アームレスリングがすごいんです！

高校2年生から始めたアームレスリング。2009年には世界選手権（63キロ級）で準優勝。同年全日本選手権優勝、2016年深圳国際選手権（80キロ級）優勝、同年日本台湾選抜戦2-0で勝利、という輝かしい成績を残されています。

絵画がすごいんです！

幼い頃から日常的に絵を描き続け、美術大学に進学してから専門的に絵画を学び始めました。1999年池田満寿夫記念芸術賞展（佳作賞受賞）東京国際フォーラム、2000年KYOTO版画2000展トリエンナーレ展（青森テレビ賞受賞）青森市美術館、2002年8大学合同美術大学卒業制作選抜展HOPES2002（大賞受賞）ふくやま美術館、2021年個展「福森優太展」スペースヴェーネレ（岡山）など、これまでたくさんの作品を制作、賞を受賞されています。

共配岡山
福森優太さん

福森課長代理の今後の目標は、アームレスリングは**世界選手権で優勝すること**、絵画は「**美術展で個展**」を開催すること、です。「これまでのアームレスリングや絵画の取り組みで『粘り腰』の姿勢が染みつき、数えきれないほどの挫折を経験しながらも粘って諦めず乗り越えてきました。現在の丸協の職場でもトラブルなどに見舞われるような局面でも、これまで本気で打ち込んできた事で得た経験則が困難から逃げずに正面から向かい続けるためのパワーの源泉としていつも自分を後押ししてくれていると実感しています。普段から100キロ以上のダンベルで鍛えているので、仕事で荷物を運んでいても重いと感じたことがないですし、鍛えた筋肉を名刺代わりに、初見のお客様とも会話が弾んで仲良くなれる、など様々な場面で仕事にも活かされています。」多彩な才能をお持ちで仕事も全て頑張る事ができている秘訣は、「楽しんで取り組んでいれば自然と欲もでてきて全部頑張れると思います。自分はとにかく欲張りなんです（笑）」とのことでした。



世界選手権2009年
(エジプト)



個展会場2021年

トラックからのケース荷下ろしを自動化するロボット、実用化へ

2024年問題対応が注目される中、荷役作業を自動化・省力化する技術には政府の助成も計画されています。2023年8月、トラックからのケース荷下ろしを自動化するロボットの発売が開始されました。

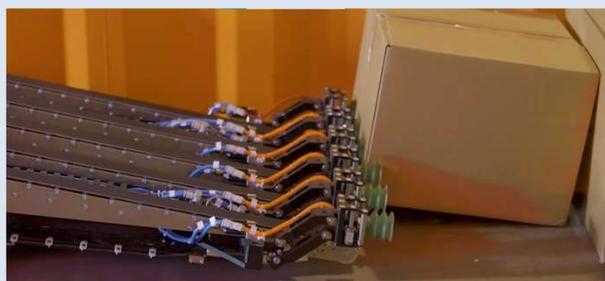
商品名は「TruckBot」(<https://www.mujin.co.jp/news/7781/>)。ゾウの鼻のように伸縮自在なアームが車室内に差し込まれ、上下左右に動いて段ボールケースを1つずつ取りおろし、ベルトコンベアに流します。

物流ロボットの世界を牽引するMujin社（本社東京）が、米国で先行発売し、日本向けにも23年内には公開予定だそうです。

ケースの端や底を側面から3D認識する技術、ケースを吸盤で引き寄せた後に、反転して板上を素早くスライドさせるアームの動きなど TruckBotには Mujinが10年以上かけて蓄積してきた技術が結集されています。「人が行うより速く、確実に」を目指して、22kgまでのケースを1000ケース/hのスピードで取り下ろす能力を実現したそうです。今後の動きにも注目です。



吸盤のついたアームがケースを引き寄せ →



スライド板面上に載せ終わると →



吸盤は板面下に隠れ、ケースが押し流される

